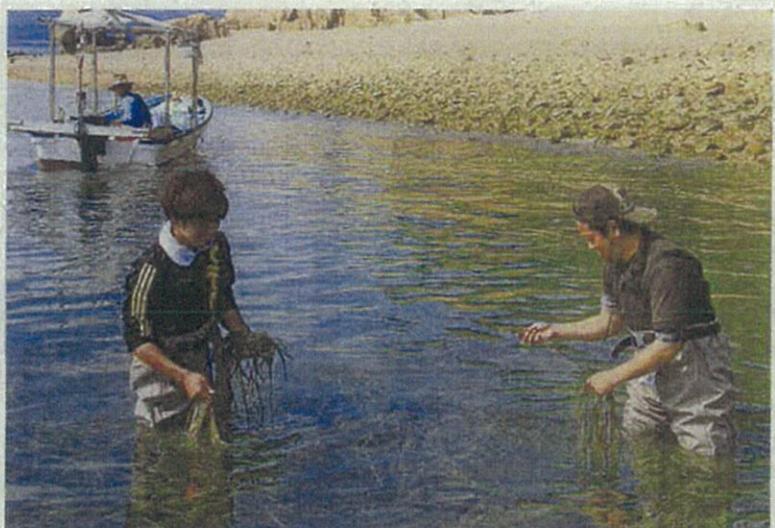


2016年6月18日『美しく豊かな海づくりに関する協定』に基づく活動の一環として、アマモ種子の採取に汗を流した。笠岡市漁業連絡協議会、笠岡市、おかやまコープ、天野産業(株)、岡山県、NPO里海づくり研究会議の総勢80名



山陽新聞 2016年6月21日（火）

花枝を採取する参加者



80人が花枝採取

10月に種まき

採取した花枝は網に入れ、市漁協近くの桟橋にロープでぐりつけ、10月の種まきまで海水に漬けたまま保管する。

同協議会委員の藤井和平さんは「今後も協力して活動を続け、アマモ場がたくさんあった昔の豊かな海を取り戻したい」と話している。

アマモ場再生しよう

アマモ場の再生活動を推進するため県や市、同協議会などが5月に結んだ連携協定事業の一環。それぞれ

の団体などから計約80人が参加した。

参加者は、市漁協（同市神島外浦）でアマモの特性や重要性などを学んだ後、15隻の船に乗り込み出発。同市神島、高島沖のアマモ場で浅瀬に入つて素手で取つたり、船上から熊手ですくつたりして花枝を採取した。

稚魚のすみかや生物の産卵場所となるアマモ場を再生しようと、笠岡地区漁業連絡協議会（井本龍雄会長）などは18日、種が付いたアマモ「花枝」を笠岡市神島沖などで採取した。（平田西沙美）